

ポートアイランド情報

神戸ポートアイランド博覧会（昭和五十六年三月二十日～九月十五日開催）



国際広場では楽しい催し物

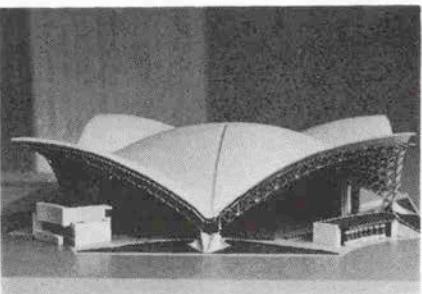
★国際広場の催し物決定祭りや音楽祭が中心

ポートピア'81の会期中の催しは

国際広場をメインにして行なわれるが、この国際広場の構想と主なスケジュールが決まった。

国際広場は、全体がドーム形のシェルターで覆われた設計で、面積約七百平方㍍。収容観客数は広場部分約千人、広場外周スタンンド約千六百人。建築費は約五億円。またこの国際広場での催しは、神戸ポートアイランド博覧会協会が主催し、宝塚歌劇団の演出家、内海重典さんが企画プロデューサー。決定した催し物スケジュールは次の通り。

- ★ビバ／ビバ／ポートピア'81誕生（3月20日～26日）
- ★ポートピア音楽祭（27日～29日）
- ★アメリカンショーラバ・ダバ・ドゥ（4月2日～15日）
- ★ポートピア花まつり（17日～22日）
- ★宝塚グランドフェスティバル（29日～5月18日）
- ★日本の大鼓まつり（20日～24日）
- ★ニューミュージック・フェスティバル（5月29日）
- ★郷土芸能・兵庫のまつり（6月1日～3日）
- ★千人の吹奏楽（6月4日）
- ★体操フェスティバル（9日～10日）
- ★アジア民族芸能（12日～14日）



国際広場の完成予想模型

公演時間は、3月20日～4月30日が午後一時と午後四時から、5月1日～9月15日は午後2時と午後6時から、各二回公演で入場は無料。

★サンヨーは得意のソーラー・システムを利用

三洋電機の「パビリオン」「サンヨー・ソーラリアム」は、太陽への讃美歌をテーマにして同社が意欲的に開発している太陽エネルギーの利用技術をみせる。同館は中央広場の北東に位置し、池に囲まれた片流れ大屋根の建物。屋根に約三千本のソーラー、コレクターを設置して冷房を行ない、池にコレクターを積み重ねたソーラー塔を設置して夜間の照明を行なう。



サンヨーソーラリアム完成予想図

- ★さよならポートピア'81（8日～15日）

また内部の展示では「太陽への旅」「太陽への讃歌」「太陽と遊ぼう」など六つのコーナーにわけて人間が太陽や宇宙に托す夢や情熱を歌いあげる。例えば「太陽への旅」では、ドーム状の通路に超スピードで流れ去る光、星間物質、宇宙船などを映し出して、未来の宇宙旅行のイメージ体験。

また「太陽をつかまえよう」では、アモルファス太陽電池を使つた未来のパノラマや、太陽発電衛星のような宇宙エネルギー開発計画の紹介を、エレクトロニクス技術の粋を尽くして展開する。総予算約八億円。

★胸元にポートピアをつけよう
★住友館は坂東玉三郎が演出する
愛と希望のファンタジア

住友商事など六十三社で構成される住友グループの「住友館」の概要が発表された。兵庫県の敷地に、約二千五百十平方㍍の敷地に、森の中の円形の劇場を作り、森の中の円形の劇場で展



ポートピアバッジ（赤、青、緑の三色）

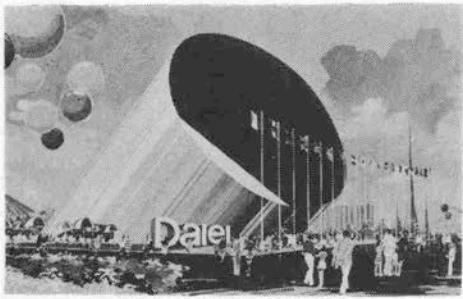
全国の記章業者が集まって作つている神戸ポートアイランド博メタル記念品協会から、ポート

ピアバッジが売り出された。トピアバッジは、直径一・五センチ、真中にポートピアのシンボルマークが浮き出て色は赤、青、緑の三色。一個三百円でそのうち五十円を協賛金として博覧会協会に寄付する。現在は神戸市内の記章屋でのみ扱つているが、将来百貨店や駅にも置く予定。新しい「神戸みやげ」としてちょっとした人気問合せ/電331-10874

トピアバッジによるピラミッド・サウンドと光、人形の幻想劇を構成する。テーマは「愛と希望のファンタジア」。舞台では、流体制御ロボットシステムなどのメカニズムと最新のエレクトロニクスが結合した完全自動化の童話劇を坂東玉三郎の演出と富田勲の音楽によって展開する。事業費約九億円。

★ダイエーは日本初のシステム
オムニマックスを活用
生活提案企業・ダイエーのパビリオンは、ワールドコースターに、立体感のある映像オムニマックスを導入し、超絶めまい体験の旅を開催する計画で、中内功同社長がこの企画の着想の主。

三百五十八人収容のオムニマックスシアターは、直径二十三㍍のドーム状スクリーンと魚眼レンズを組み合わせるオムニマックスという映像システムを活用するもので、観客は空間や時間を自由に移動できる。この劇場はアメリカとメキシコで実現されているが、日本では初めて。



ダイエーパビリオン予想完成図

また「ワールド産直バザール」を設置して、世界各地のベストソースからお土産などの好適品を集めて販売する。総経費約十億円。

念願の東京進出を果たした

神栄石野証券



「制約を克服するところに仕事の妙味がある」と語る
石野成明・神栄石野証券社長

程、本社は神戸にあるけれども金融的な動きは東京へウエイトがかかるということがあります。そういう会社から注文を頂戴しようとすると、やはり東京へ出て行く必要があつたということです。

第三点としては、証券は常に情報を必要とするということですね。

確かに神戸でもある程度の情報は入るけれど、東京ではより多くの情報が得られるということです

――石野社長は若くして先代の石野貞雄さん（現名譽会長）から経営をバトンタッチされたのですが、いろいろご苦労があつたのではないですか。

石野 証券の仕事に関しては三十年のキャリアになりますね。現在の従業員は四百二十人ですが、三十年前には十五人位からスタートしました。その間、外から見てもまた自分としても大変苦労であったということは事実ですね。しかし、私自身はそれを苦労だと思っていないわけです。たとえば、十年前に神戸証券取引所を廃止したとき、「石野は苦労しているな」と周囲から思われた確かにかなり苦しい環境ではあつたけれど、私自身は前向きに問題を一つ一つ取り除いて行こうと努力を払ってきましたので、苦労でかなわんという意識はなかったですね。これも一つの生き方、考え方でしようね。

本当の苦労とは「為すところを知らず」といいますか苦労の原因を取り除く努力の仕方が分らない、あるいは努力をしないというときに苦労と考えるのであって、自分の力、組織の力で何とか苦労の原因を除こうという

――昨年四月一日に神栄証券、東京神栄証券と合併され待望の東京進出を果たされたわけですが、どういうところにメリットをお感じですか。

石野 神戸の証券会社が東京へ進出したのは当社が初めてですね。東京進出のメリットの第一点は、これまで東証の会員資格がなかったので、東京で直接、売買が出来ず、兵庫県の顧客に十分なサービスが出来なかつたのが出来るようになったということです。

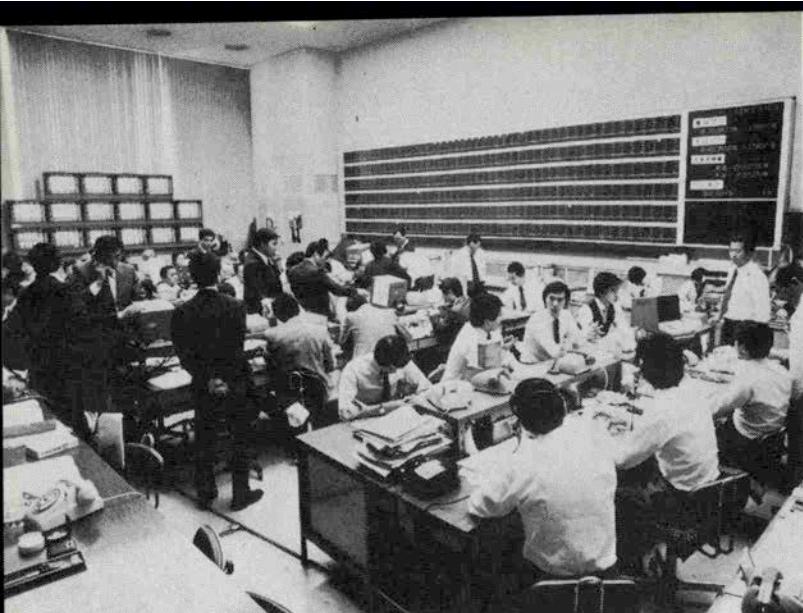
第二点としては、神戸だけではなく全国の法人の金融資産の動きは現状として殆んど東京へ集っている。成

目的をもつて努力しているとき、それは苦労ではなくむしろ、人間の生き甲斐であり、仕事のやり甲斐だと考えています。

限られた資金と限られた組織、限られたスタッフでもつて努力して行くことが仕事であって、十分な人材、十分な資金で効果があがることを狙うのは、これは仕事だといえない。どこかに制約があつて、それを克服して行くところに仕事の妙味があると思います。それと、常に新しいものへ挑戦して行くファイト、これが必要です。

——お客さまへのアドバイスをお願いします。

石野 株式は多かれ少なかれリスク（危険性）のあるものですね。利益が大きい反面、損もする。これは証券だけではなく、債権もそうですが、お客さまのニーズに応



午前10時から11時の時間帯は最も活気のあるときだ（栄町の本社1階）

じた適切な商品をすすめて行くことがこれからの証券業者の一番大事なことです。資本が利益を生み出して行く場合、危険な投資ほど、利率が高いという原則的なものがあります。

ですから、お客さまには大きな利益を得ようと思うとそれだけ危険度が大きくなるということを理解して欲しいのです。利益が少なければ元金の安全性が高くなる。高利に回そうとすると危険が伴なうということです。

——今後の抱負を聞かせて下さい。

石野 あくまで地元に密着した証券会社だということですね。スタッフがすぐどこかへ転勤するということもないわけで、それだけ、お客さまに対しても、「スロー・バット・ステディ」といいますか、遅いけれど確実にやつて行って貰えるような営業のやり方をしなければいけないということでは、どこにも負けない気持ちです。地元の人たちに愛される証券会社ということですね。

そのためにはリスクキーなことにお客さまをお誘いしてはいけない。なるべくステディに利殖をしていただきて、株式投資の妙味を味つていただけることが第一です。

——最後にこれから問題はどうあるとお考えですか

石野 既存の組織をもつっている東京の証券会社と合併したので、関東に五店舗が増えて全部で十四店舗になりました。この組織にどう活力をもたらして、どう活発なものに仕上げて行くかということが今後の問題ですね。顧客から受けた注文を東京へ流して売買を処理する機能といふか、処理能力の問題です。組織を序々に強化していく。どこでもそうでしょうが、結局、人と組織の問題です。全国的に見てもかなりの規模の証券会社になつて来たので、組織が全力を發揮できるような体制づくりが急がれます。さらに人材の育成は組織のように一朝一夕には出来ませんから大変です。と同時に、これから証券会社の命運を左右するのはコンピュータリゼーションの問題ですね。それへ対応していくための機能を備えて行かなけれ

ばいけないでしょうね。

□神栄石野証券株式会社

神戸市生田区栄町通一丁目八一二

電話

(078)391-1000

（セ

オリエンタル レディスクラブ

会員募集中



オランダ総領事館協力による
オランダ料理のグルメの会

年会費：お一人 5,000円

割引：オリエンタルホテル、六甲オリエンタルホテル
での宿泊、飲食の際サービス料10%割引いたします。
その他いろいろの特典がございます。

特別催：随时、会員のための特別催しをいたします。

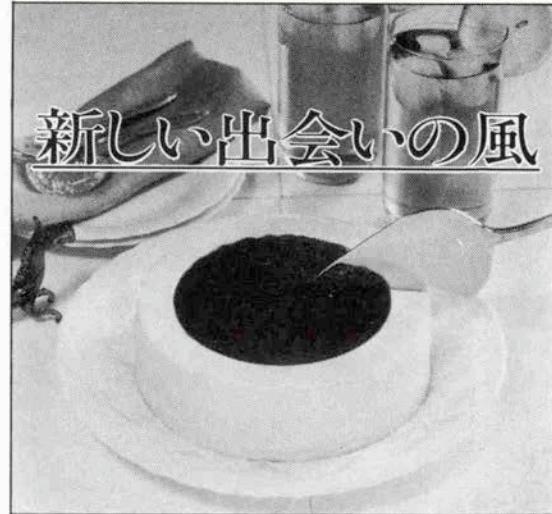
お問い合わせ

オリエンタルレディスクラブ事務局

神戸市生田区京町25 オリエンタルホテル内

（078）331-8111

新しい出会いの風



毎日、新しい出会いがあればいい。
人であれ、物であれ、
それが自分自身であれ、
何かひとつは、新しい出会いがほしい。
今日、出会った新しいおいしさ。
ユーハイムのヨーグルトトルテ。
ヨーグルトの甘ずっぱさと
ヒンベアーソースの香りが微妙にとけあって
甘いケーキにあきたあなたに
きっと新しい出会いになるでしょう。

●その他ハイデルベアーソース、オランジェンソース、ブレーンがあります。

本店・三宮 生田 神社前 TEL 331-1694

三宮店・三宮 大丸 前 TEL 331-2101

さんちか店・三宮地下街スウィーツタウン内 TEL 391-3539

ドイツ本店・フランクフルトゲーテハウス内

トイツ菓子

Fudgesin's

ユーハイム

このマークのお店でお買い求め下さい

ソーラーシステムの開発

大分大学エネルギー工学科施設
嶋田勝次／神戸大学工学部建築科助教授▽

省エネルギーの方策については

大分叫ばれ、いろいろな試みが行
われて來ている。太陽熱利用のソ

ーラーシステムの開発はその身近
な例であり、更にまつとうなとり

くみが、このたび大分大学工学部
で発足した。

私共の神戸大学工学部でも新し
い建築施設の計画に組み込もうと
大分大学工学部エネルギー工学科

の施設を視察した。

大分大学は神戸大学のようなマ
ークス大学と異なり、こじんまり
とまとまって、特色あるユニーカ
ークを誇っている。大分市街地
南部丘陵地に新しく移転建設され
閑静な自然の中にある。経済・教
育・工学の三学部より成り、工学
部は四十七年設立、機械工学・電
気工学・組織工学・化学環境工学・
エネルギー工学・建設工学の六学
科で各四講座編成という構成だ。

その中でもエネルギー工学科は
新しい内容で、エネルギー基礎・
エネルギー資源・エネルギー変換・
エネルギー伝送と分かれ、かなり
の期待と実績が積み上げられて
いる。そしてこの学科の建物自身が
ソーラービルとして実現している
のである。屋上全面を集熱板で覆
い、別棟の蓄熱槽にその太陽熱エ
ネルギーを貯え、当建物の冷暖房
に利用すると共に、多様な関連測
定調査を継続して実施している。

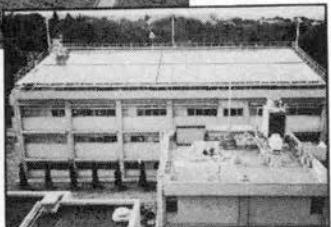
この建物を「ソーラビル」とも
称し、当初、通産省工業技術院の
主管プロジェクト「サンシャイン
計画」に基づく大型建物太陽冷暖
房給湯システムの研究開発の実験
建物として、川重・鹿島・東洋熱
工学の三社共同研究で開発が進め
られ、文部省の建築施設にドッキ
ングされたものである。

研究棟延一六九二・二三三畳の三
階建と、機械棟延一七七・〇四畳
の二階建で、五十二年三月竣工、
機械据付・調整運転を経て、実驗
計測が五十三年四月から行われて
いる。

太陽熱は、まず屋根面上部に並
べられた十度勾配の集熱板の中を
流れる水に受けとめ、温められた
温水を別棟の鋼板製の五〇畳の蓄
熱槽に引き入れて熱が蓄えられ
る。冷房の場合はその蓄熱槽で別
系統の水を温め（約八十五℃）、
その温水を吸收冷熱して冷水を作
るものであり、暖房の場合は集熱
回路と蓄熱槽回路で水を温める
(約四十五℃) ものであり、いず
れもその冷水や温水を空調機によ
り空気を暖めたり冷やしたりし、
輻射天井や床から室内気候を作り
出すものである。

この機構設備施設を視察し、新
しいエネルギー資源の開拓にいろ
いろなヒントを得たが、まだまだ
これから摸索が山積みしているこ
とを感じた。

折角の大分で城下がれいの季節
に早く残念ながら賞味出来ず、
麦焼酎と共に春の一日は暮れ、翌
日は久大線に乗ったのどかな旅で
あつた。



<上>大分大学工学部全景（大分市大字旦野原）

<下>ソーラービルのエネルギー実験研究室棟



トーマスさんちの風見鶏

杉山 義法（放送作家）
カメラ／緒方 しげを

西独フランクフルト在住のエルゼ・カルボウさんと云う老婦人が、NHK特派員のインタビューに答えて――

「船で神戸の港に入ると、皆さんが“あ、トーマスさんのうちの風見鶏が見えた”とよく云ったのです……」

と「風見鶏の館」の思い出を語っている。ご存知の方もあろうが、カルボウさんは「風見鶏の館」を建てたトーマスさんの娘さんで、横浜に生まれ、2才から14才まで「風見鶏の館」に住んでいた人である。インタビューは勿論ドイツ語だったが、その中の“ア、トーマスサンノウチ”的部分だけが明瞭な日本語だったのが印象深かつた。

その旧トーマス邸の風見鶏を、私がNHKの連続テレビ小説「風見鶏」のモチーフを使った事から、この特集の「風見鶏の館」を受持つ事になったらしい。そこでハタと気がついたのだが、私はまだ「風見鶏の館」の内部を一度も見た事がない。外側だけは、仕事に疲れるとホテルをさまよい出て何度も見に行つた。見る度に新たな発想が生まれる様な気がして、あの風見鶏にはどれ程励まされたか知れない。

はじめて旧トーマス邸の風見鶏を見た時は、ちょっと意外な気がした。港から吹いて来る風に向って、寂然とスマートに立っている風見鶏を想像していたからである。ところがトーマスさんちの風見鶏は何に驚いてか、二本の足で思い切り大地を蹴り、鋭いくちばしをカツと開

いて、うつかり手を出そうものなら、一撃で甲を喰い千切られそうな猛々しさである。

「なんであんなにバタバタしているのだろう?!」

それが第一印象だった。だが、考えてみれば、風見鶏はもともと、教会の尖塔につけられた魔除けの雄鶏だから、猛々しく戦斗的なのは当然である。それはきっと、故国を遠く離れて異郷で暮らす異人さん達にとつて、梯子を取りはずされた屋根のテッペンで、たえず国際状勢と云う風を気にしている自分達の心情が象徴されている様に思えたのだろう。そんな事を考えて何度か眺めているうちに、今度は目には見えないものまでが見えて来た。

あの風見鶏の下にもう一羽、体をまるくしてうずくまっている雌鶏がいる。そのふくらませた羽の下には、生まれたばかりのヒヨコが何羽かふるえているに違いない――トーマスさんちの風見鶏を見ていると、そんな光景が瞼の裏側に浮かんで來るのである。“風見鶏の異人さんと結婚した日本の女性もまた、風見鶏ではなかつたか?!”それがNHK朝のテレビ小説「風見鶏」のヒロイン・松浦ぎんのイメージになり、ブルックマイヤー一家の波瀾のストーリーが生まれた。

以来、放送が終つたいまも、なんとなく風見鶏と縁が切れない。各地で様々な風見鶏を見たが、私はやはりトーマスさんちの風見鶏が一番気に入っている。ブラジルのアマゾン河口の古い港町ベレンでも、赤道直下の炎天

に灼かれていた風見鶏を見た。去年の暮れには、北海道の函館で雪の中の風見鶏も見た。その一つ一つのいわく因縁を尋ねれば、それぞれにドキリとする様なエピソードが秘められているかも知れない。

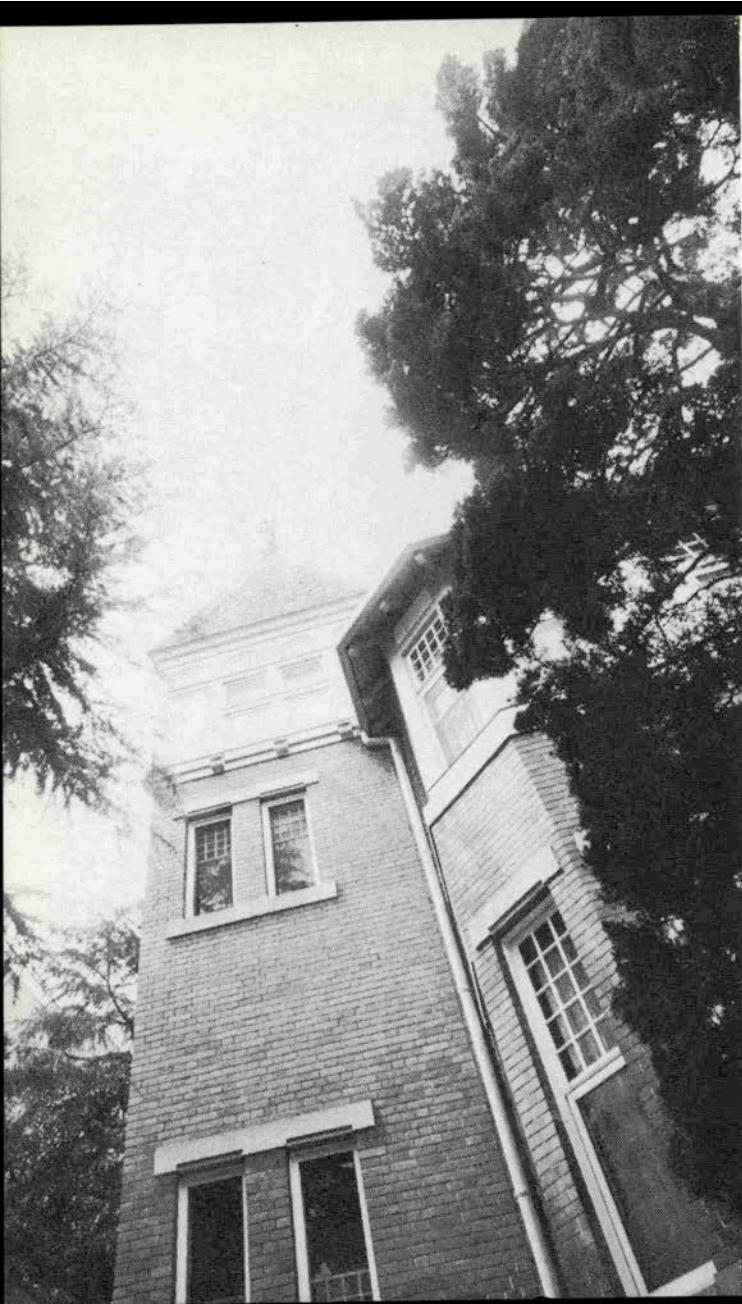
いま、テレビ小説を書いていた時の資料がどこかに入り込んでしまって確かめられないのだが、トーマスさんちの風見鶏をデザインした人はどう云う人だったのだろう。確かにオリエンタル・ホテルの風見鶏をデザインしたのもその人だったと記憶しているが、機会があつたらその人の事を調べてみたい。

それともう一つ、トーマス邸の風見鶏の真下の天井に

は、東西南北を示す方位盤がついていて、『家の中からも風向きがわかる様になっていた筈である』と教えてくれた人がいたが、ほんとうだろうか。今度、神戸へ行ったら確かめようといつも思うのだが、行けば毎度深夜に及ぶカラオケ狂いで、いまだに果せずにいる。

「風見鶏」放送当時、旧トーマス邸は中華同文学校寮に使われていて、クリスマス近いある夜、中山手通りのブラジル・レストランで、たまたま同席して一緒に歌を唄った同文学校の卒業生達の爽やかな笑顔が忘れられない。異人館が素敵なのは、人のぬくもりが残っているからである。

異人館のシンボルよりも昔戸のシンボルとなつた「風見鶏の館」(北野町)



ラインの館

島 京子（作家）

カメラ／緒方 しげを

神戸に育った私には、異人館のある風景というものは、眼になじんでいて、どうということもないが、以前、毎夏信州へゆき、一ヶ月滞在していたとき、同じ民宿に泊りあわせていた人たちから羨やましがられたものだ。

「神戸、一度行ってみたいですね。外人が多く住んでいるのでしょう。本ものの西洋館もたくさんあるのですよ」

他郷の人があこがれが、近ごろの異人館ブームに結実したのだろうか。

その異人館のひとつ『ラインの館』を見に出かけたのは、やわらかく萌え出たばかりの新緑が、四月末の陽をうけて初々しく光っている午後であった。

北野坂を車で登りつめ、右折。東西の北野通りをわずかに走ると、歩道上に『ラインの館』の表示があつた。車を下り、看板の矢じるしに誘われ、北への階段を少し登ると左手にレンガ塀にかこまれた館があつた。

玄関口まで敷かれたレンガの通路を歩き、館の中に入ると、平日にもかかわらず、かなりの見物客が来ていた。ドイツの歌が流れている。（何の歌かわからなかつたが）

西側の二部屋が、ドイツ人が始めたことでよく知られているお菓子会社経営の喫茶室になつていて、歌はそこから流れてくるわけだ。ドイツ製の家具調度が使われているという喫茶室には、三組ばかりの若いカップル、若

い女性グループ、主婦らしい中年の二人連れが、簾製の背もたれのついた椅子に坐り、一枚板のテーブルを前にコーヒーを飲んでいた。エキゾチシズムとアンティークの混じりあう空間で、すごすひとときは、まちがいなく、流れ去る時間を『思い出』のひとつに定着させる作用を果すのだろう。

神戸にも残り少なくなつた異人館は、やはり外国にもない神戸独特のものなのだろう。明治から大正にかけての歴史の変革期に、簡単な外人住宅として建てられたものと聞いたことがある。

この『ラインの館』も大正四年の建築で、クリーム色のベンキで塗られ、茶のふちどりが、外壁に規則正しい模様を描いている。その線（ライン）が美しいといふところから、名がつけられた由。

二階に上つてみると、からし色の敷物がいくぶんくたびれ気味の部屋は、がらんとしており、白い壁に神戸の歴史を伝える写真や絵が展示されていた。

サン・ルーム風なベランダに出ると、明るい陽さしが入る窓ガラス越しに、春がすみにかすんだ市街地が見えれる。夜景が美しかろうと思ひながら、むかしもいまも、歐米人は港町の高台に住むのを好む、ということを考える。ゆとりとか、生活をエンジョイするという彼らのメントアリティがうかがわれるが、またこれは彼らの富と地位、プライドをもうかがわせる。

庭に出て、手入れのゆきとどいた庭木を眺めた。

カエデ、アラカシ、タイザンボク、ヤブツバキ、モツコウ、ヒラドツツジ、ノシクラメン、トベラ、シユロなどの樹木が館の西側にあるこじんまりした石畳の庭の周りをかこむようにして植えられている。案内書にある

“珍らしいドイツとうひ”（クリスマスツリーに使うモミの木）はどれか、と探して眺める。

しばらくカエデの樹かけのベンチに坐っていると、一

組の老夫婦が、仲よく館を背景にして、互にカメラのシャッターを切っていたが、そのうち主人の方が近づいてき

「すみませんが、ちょっとお願ひでき……」

みなまで聞かず、私はすぐ立って、カメラを受けとつ

た。

陽さしがファインダーの中の館と二人をくつきりと浮かびあがらせていた。

カメラを返しながら聞く。

「岡山から来ました」

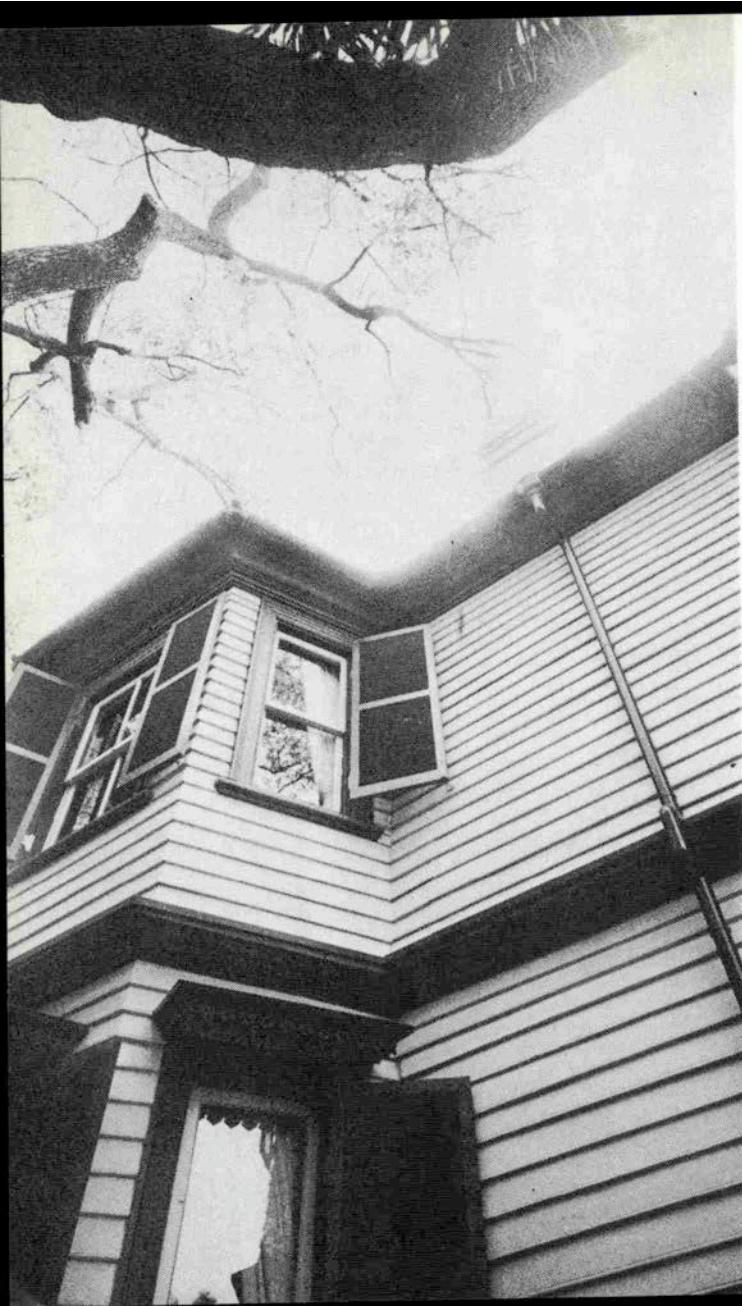
「どこから、いらっしゃいました」

新幹線に乗って、きょうのうちに帰るという。若い人たちとはちがい、この二人には、異人館はノスタルジアに通じるものだろうか、とふと思う。

カメラをかまえた若い男が、思い思いの角度から館を写す光景が頻繁に見られるようになり、やがて中高年の女性の団体が門からどつと流れこんできた。

同じような光景が、これから先、どれほどくり返しつづけられるのだろう、と思いながら館をあとにした。

広い庭には石造りの舞台もある「ラインの館」
(北野町)



華僑総会の主人公

春木 一夫（作家）
カメラ／緒方 しげを

神戸華僑総会は明治四十二年の建築で、もとのゲンセン邸である。木造二階建で、ベランダやベイ・ウインドーがあり、壁は下見張りベンキ塗、コロニアル・スタイルの洋館である。

華僑といえば、中国人で海外に居住する、すなわち仮り住居をしているという意味であるが、実態はそうではない。仮り住居は日僑で、華僑は永住してしまうところが面白い。

南シナ一帯に、望天山とか望夫石の伝説が多い。中でも香港対岸の九竜郊外にある望夫山は有名である。海外へ出稼ぎに行った夫たちが、送金はしてくるが帰つてこない。残された妻は小高い山に登り、南の海を眺めていながら、石と化してしまったという哀れな物語である。

このように華僑は全世界に散らばっているので、世界中のマーケットを支配しているのは、華僑だと思っていた。ところがある日、梅棹忠夫助教授（現在は国立民族学博物館館長）と話していたら、華僑の勢力はビルマまでだという。インド以西は印僑、ギリシア以西は希僑だと教えられた。その後、東南アジアやインドを回つて見て、なる程華僑の勢力はビルマまでだということがよくわかった。

ここ数年、ベトナムから華僑が、どしどし越境して帰国している。ベトナムの社会主義に圧迫されてのことでは、当然のことだ。だから、下着の代金など貰おうな

ある。これもうなづける。十年前、ビルマのラングーンへ行つたとき、華僑の息子で日本語を勉強している青年と出会つた。ビルマ政府は社会主義を唱えており、物資は統制だから商売はあがつたりだと慨いていた。

「なんで日本語を勉強するのや。日本人がやつてきたら、その時就職するためかいな」

「うんにや、そやない。日本語が面白いからや」という。

大阪船場の商人が、昼間はゼニ儲けに懸命であるが、夜ともなれば懷德堂や泊園書院などへ出かけ、楽しみながら聖賢の道を学んだのと軌を一にしている。ゼニ儲けと純粹な学問とを、はつきり割り切つてある点がえてして妙である。大阪人は華僑によく似ているといわれるが、華僑の魅力もこうした処にあるのでは……。

華僑といえば、蒙古にいたころ大そう仲の良かつた衣料商がいる。ある時、私はクループス肺炎にかかり、四十度以上の熱を出した。日に何回も下着を替えねばならない。洗濯しただけでは足りないので、毎日買つていたが、それを全部彼がまかなくてくれた。一月程で全快したので、衣料の清算に出かけていった。少しは負けてくれるだろうと思っていたが、ビタ一文値引きしない。そして、彼はいった。

「私は君の友達だから、あんたが困つてゐる時に助けるのは、当然のことだ。だから、下着の代金など貰おうな

どと思ったことは、ただの一度もない。しかし、あんたはそれを支払うという。そうなれば商売だから、私は利益を得るために、一銭も割引きはしない。あんたはどちらの方を取るかね」

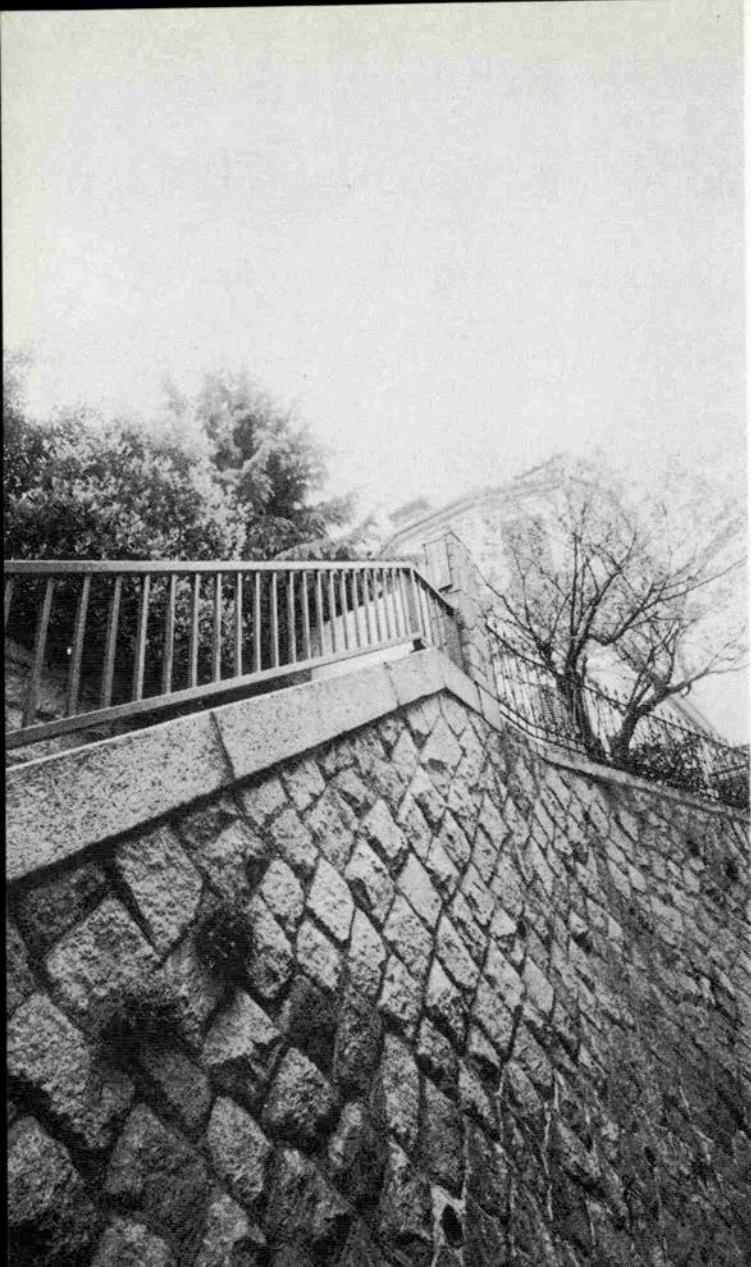
丸損か全額払いいか、どちらかだというのだ。参った私は、彼の好意を受入れざるをえなかつた。

このように華僑は、いたん信用すると、とことんまで親身になつてくれる。これが中国人の良さである。恐らくこれは、儒教で強調されている人情を重んじる道徳観にもとづくものであろう。

ところが最近になって、孔子批判が再燃してきたと、報道されている。香港の中立系紙「明報」は、論語を引用しながら、儒教が現代中国に及ぼしている悪影響について述べているのだ。「人情を重んずる道徳観念」は、唯

物論を基礎とする社会主義国家になつても消えず、「コネによる解決」「ヤミ取引き」「裏口行為」などの諸悪を生んでいるという。さらに人情社会は、中国人のよく口にする「一家人」意識を育てる。「論語」(顔淵篇)は、「君子は礼を守り、慎み深く人と交わって行くものだ。そうすれば人間すべてが兄弟になれる」と述べているが、こうした意識は権利・義務の觀念を希薄にしてしまう。これは指導部が一般民衆による民主・人権の要求を抑えつけるのにもつてこいだと批判する。また、「人情社会」は、「法治」に対する「人治」「徳治」への期待を呼び、これに失敗すれば専制政治を生むともいう。こうした批判が果たして妥当なのか。やはり私の脳裏には、人情的な華僑の姿が生きづづけていることを、拒むわけにはいかない。

北野町の高台にひっそりとたたずむ石垣の上の「神戸華僑總会」



麦の秋

秋吉 好（作家）

カメラ／緒方 しげを

大きく開いたヴェランダの窓から潮風が吹き抜けた。庭のアゼリアが満開だった。低い煉瓦塀のそばで、妻の愛子と侍女が花を摘んでいた。

生田の森を開んで洋館が立つ。港がひろがる。白い外洋船が出て行く。海は青いベルトのようだ。対岸にかかるに林立する煙突が見える。北野町に来たころは、田畠の続きに住吉や芦屋の浜の松林が見え、その上に遠く大阪鉄工所の建物がのぞまれた。しかし、今ではそれも煙に隠された。この国の近代化は恐しいほどの速さで進んでいた。

ハンターの胸底には、三年前に長男の龍太郎が所主をやめたときに感じた、言いようのない淋しさが蟠つている。安治川の河口の三角洲で、わずか二百人で始めた工場が、五十年足らずで日本有数の造船所になった。たしかに彼はそれだけで満足しなければならなかつた。もはや個人の時代ではなかつた。

下から妻が呼びかけた。何を言つたか分らなかつた。「なんだ？」と、ハンターは聞き返した。また言つたが、聞こえなかつた。妻も侍女もハンターを見上げて笑つた。初夏の日差しを浴びた女の笑顔は健康だった。ハンターは、しかし、不機嫌になつた。次第にそれが見知らぬ黄色人にまぎれてしまう不安があつた。彼は部屋にもどつた。

ハンターは年をとるにつれ自分が英国人であることを

強く意識するようになつてゐた。この洋館をドイツ人が譲り受け、グラスゴーから取り寄せた家具で飾るのも、英國回帰の念が押えがたかつたからである。またそれは、自分がこの国の近代化の捨石に他ならなかつたという諦念に対する反発でもあつた。

ハンターは一八四二年北アイルランドのロンドンデリーで生まれた。十五才で國を出て、オーストラリア、香港、上海をまわり、一八六五年（慶應元年）に横浜に着いた。そこでE・C・キルビーと出会い、二人は一八六年の開港から神戸に住んだ。

キルビーはやがて造船が盛になると見越して小野浜に造船所をつくった。ハンターはそこで造船を学び、また秋月清十郎を知つた。キルビーは若いハンターに事業の厳しさを教えた。彼はこの國の一員として近代産業を根づかせようと尽力した。日本最初の鉄製汽船を造り、近代経営を導入したが、失敗し、拳銃自殺をした。ハンターが秋月とハンター商会をひらき、大阪鉄工所を設立できたのは、ひとえにキルビーという手本があつたからだ。彼を知らなかつたら、七十六才の今日までこの國に留まることはなかつたらう。秋月清十郎は日本人とは何であるかをハンターに教えた。この元紀州藩士は信が厚く勤勉実直で研究心に富み、新しい國にふさわしい男だつた。秋月と仕事をしているところがハンターの全盛だつた。煙草や煉瓦会社を興したり、日本米を精製して英國に送つ

た。タイや北米から木材を多量に輸入した。さらに、独立党の金玉均と結んで朝鮮貿易を図ったこともある。

ハンターには開港以来の神戸を見てきたという自負があった。この古くて新しい国と共に生きて来た。

だから、横浜の居留民が日英条約の改正に反対したのを憤慨し、神戸の居留民の意見をまとめ賛成した。ハンターは居留民も日本人も一体となって建国にはげむべきだと考えていた。それが神戸を故郷とし、日本人と結婚し、神戸に死ぬことに決めたハンターの信念だった。しかし、この国では大和民族以外はすべて異人であった。異人を含めて国をつくるという思想がなかつた。

ハンターは妻の言葉をたしかめるために下に行こうとした。侍女が階段を上つて來た。赤紫と白のアゼイリア

を抱えた日本娘の若さが眩しかつた。

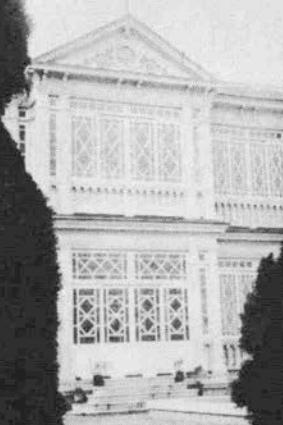
「おい、さきほど、奥さんは、何と言つたんだ?」と、ハンターがたずねた。侍女が相好をくずした。丹波から出て来てまだ一年にならない。ハンターにも物怖しなかつた。国の変化は人間をも変える。

「お薬を、お呑みになりましたかと、おっしゃいました」と、侍女は歌うように言つた。ステンドグラスを透した光が白いエプロンに微妙な色を映している。「近ごろ、よく、お怒りになると、こぼされました」

「なんだ。そんなことか」

老ハンターはぶつきらぼうに呟いた。ハンターは六月二日に死んだ。

現存異人館のなかで最も規模の大きい「旧ハンター住宅」。
北野町から王子動物園東隣に移築されている。



異人館連続殺人事件

新井 満（シンガーソングライター）
カメラ／緒方 しげを

眼が悪い。

それも相当に念が入っていて、まず強度の近視である。

接唇するほど近づかぬと相手の顔がわからぬ。相手が美

人なら好都合だが、そうでない時の方が圧倒的に多い。

次に強度の乱視である。お月さまが四角に見える。ベ

チャパイの女がマリリンモンロー風に見える。不便であ

る。

三番目に強度の斜視である。主人の私に断わりなく目

玉が勝手に散歩に出る。これが始まると風景の左右が入

れ替つて見えるから困る。私が三輪車以外の車を決して

運転しないのは、運転すれば必ず人をひき殺す自信があ

るからだ。

近視乱視斜視。これがホントの三拍視そろったイイ男

である。

元来は、眼は良かった。それがどうして突然、眼を悪

くしたのか、その話を次に書く。題して異人館連続殺人

事件の顛末。

☆ ☆

港が見える丘の上に立つ異人館。その持主は愛さんといふ若い中国人で、莫大な遺産を相続した上に絶世の美女だという評判であった。ところが彼女、男運が悪い。

六年前にAという男と結婚した。

ところがAは、結婚直後、突然失明。

「美し過ぎるものを見てしまった…」

とだけ言い残して行方不明になった。

四年前にBという男と結婚した。

ところがBも又、結婚直後、突然失明。

「完璧過ぎるものを見てしまった…」

とだけ言い残して失踪。

二年前にCという男と結婚した。

ところがCも又々、結婚直後、突然失明。

「この世ならぬものを見てしまった…」

とだけ言い残して蒸発。

つづけざまに結婚したばかりの大の男三人もが姿を消したのである。警察も黙つて見すごすわけにはいかなくなつた。その上、三人はすでに殺されているのではない

か、という噂まで出る始末。北野町警察のコロンボこと

私、目暮警部は丘の上の異人館へ急ぐ。初夏の夕方である

木造二階建ての切妻造り。建物の中央には円型の塔屋。

玄関に立つと、まるで私を待つていたかのように扉が音

もなく開いて女が一人、

「愛さんですか？ 私が本日来ました理由は…」

「わかつております。三人の主人たちのことございま

しょう？」

「これは話が早い。巷では、あなたがご主人たちを殺したのではありません。本当のことです」

「エッ？」

「はい。ですから私が三人を殺したのです」

「どうして又？」

「大体、結婚なんかしてはいけなかつたんです、私。でも三人三様の強引なプロポーズを断り切れませんでし

た。それで仕方なく、ある条件を付けて結婚したのです」

「と、言いますと？」

「ベッドの中で決して明かりをつけぬという…」

「こりや又」

「でも、夫たちは結局、三人とも私との大切な約束を守

ってはくれませんでした。そうして、見てはいけない私

の体の秘密を見てしまい、そのあぐく失明してしまった

のです」

「で？」

「あの秘密を知られたからには生かしておくわけにまい

りません。失明したのを幸い、二階から突き落とし絶

させ、海に運んで沈めました」

「な、な、なんという残酷なことを。それでも貴様は人

の子か？」

「いえ、人魚の子です」

「ギャッ?!」

なんと愛さんは、人魚だったのだ。

一階の喫茶室の横には古いコーナーもある「うるこの家」(北野町)

それで謎が解けた。この異人館の壁の不思議な装飾は意味なくほどこされたのではない。人魚のウロコを型どつていたのである。

逃げ足の早い彼女を、須磨の海岸まで追いつめ、まさ

に捕えようとした瞬間、彼女は着ているもの全てをパツ

とぬいでしまった。その時、私は見た。この世ならぬほ

どに美しく完璧なものを。月の光に怪しく輝く人魚のウ

ロコを。

「あっ、なんて綺麗な…」

ボンヤリ眺めている私のスキをついて彼女は海の中へ

ザブーン。

私の眼はあの瞬間から悪くなつた。しかし、悪くなつたとはいえ、せいぜい近乱斜の三拍視していくで済んだの

である。失明を免れただけ幸運だったと言わねばなるま

